

鬼瓦のルーツを尋ねて韓国へ (28)

ウォルチョンサ
広大な月精寺で 140 コマ

前橋市 富山 弘毅

江陵(ガンヌン)の手前にある月精寺(ウ

オルチ
ョンサ)
は643
年に慈
蔵律師
によって創建
された
古刹で
す。最
大級の
広大な
寺院で、
数え切
れない
ほど多
くの再
建され
た建物
があり
ました。

まず、
どっし
りとし
た金剛
楼が迎
えてく
れました。

屋根
には大
きな龍
頭瓦が
載って
いまし
た。



月精寺金剛楼前で(左から)金在煥会長、尹永淑通訳、筆者。



江陵 月精寺 解行堂 鬼面望瓦 銅版

門に向かって左の建物には解憂所(トイシ)の大きな看板がありましたが、寄るのはあとにして、右を見ると美しく光る銅葺き屋根の解行堂がいくつもの鬼面望瓦を載せていました。デザインは他所でもお目にかかったもので、瓦ではなく銅製でしたが、太陽光線の角度で金色に見えたり緑色に見えたりする独特の美しさに見とれました。

宝荘閣(博物館)に、白い法衣に瓦の墨押しをしたものが展示されていたのは、ユニークでした。

三聖閣、寿光殿には緑色の鬼面望瓦がありました。選仏場=大法輪殿などには龍頭瓦が目立ちました。

寂光殿前の八角九層石塔がもっとも有名な文化財で、塔の前には両手を合わせて拝んでいる石造菩薩像がありました。



江陵 月精寺 寂光殿前 石塔と石造菩薩像

天王門の四天王像はどれも龍の腹帯をしていました。徹頭徹尾、龍が主役です。この寺だけで1時間半、140コマ撮影しました。

江陵 月精寺 湧金椀 鬼面望瓦



ガンマン オ ジュクホン
江陵の名所・烏竹軒

江陵の名所のひとつ、烏竹軒（オジュクホン）に着くと、金在煥会長はトッケビの刺繍の入った白いチョゴリに着替えて事務所に入っていました。江原道文化財委員会会長で武陵博物館館長の表敬訪問という形で挨拶したのでしょう。

おかげで私も無料で入場し、広い場内をゆったり見学しました。



烏竹軒の邸宅群の一つ

烏竹軒は朝鮮時代（1392～1910）初期の建築物で、韓国の建築史上の重要性から宝物第165号に指定されています。鬼がいないかと期待して見学



江陵 烏竹軒 江陵市立博物館 展示 鬼目文 軒丸瓦

を希望したのですが、残念ながら発見できませんでした。

烏竹軒市立博物館（江陵市立）の屋根には大きな龍頭瓦があり、展示物にはこの地方での歴史資料や民俗的遺産が多数ありましたが、鬼面瓦は無く、鬼目（トッケビ目）の望瓦しかありませんでした。

刺繍博物館、船橋荘

近くにある東洋刺繍博物館では館長が迎えてくれ、名刺交換しました。中国18～19世紀の立体的な刺繍の龍、日本のふくさや風呂敷の刺繍、江戸時代初期の侍のベッドカバーに金糸で牡丹模様を刺繍したものなどが目を引きました。でも、鬼の刺繍はありませんでした。

船橋荘（ソングョジャン）は江原道地域で最もきれいに残されている朝鮮時代後期（18世紀初頭）の上流住宅です。近くの鏡浦湖がいまよりも広く、出入りに船を利用してためこの地域を船橋里と呼んでいたことに由来するそうです。

数百坪の蓮池の周りに母屋、悦話堂、東別堂、活来亭など、総建坪1,051㎡（318坪）の邸宅群が保存され、いまでも子孫が住んでいるそうです。

庭園に立てられていた「天下大將軍」「地下女將軍」と彫られた太い木柱は、慶州の街などで見かけたものですが、守り神ならぬ「守りトッケビ（鬼）」なのだそうです。



江陵 船橋荘 天下大將軍 地下女將軍

このみごとな伝統建築群にも鬼瓦を期

待したのですが、残念でした。



江陵 船橋荘 全景

ソクチョ ナクサンサ
東草の景勝地・洛山寺

15時30分、東草（ソクチョ）へ向かい、45分走って洛山寺（ナクサンサ）に着いたときには、すでに夕暮れが近づいていました。東海をはさむ山のふもとの松林の中にあるこの寺の洛山という名は、梵語「捕陀洛伽山」（観世音菩薩がとどまる所）の略語だといひます。



海岸に立つ洛山寺



江陵 船橋荘 望瓦 ユニークなデザイン

江陵原州大学校の博物館

江陵原州（ガンヌンウオンジュ）大学校の博物館には、発掘史料の古瓦がたくさん展示されていました。破片がほとんどですが大切にされており、中に一つだけトッケビ（鬼）面瓦がありました。貴重品です。



江陵原州大学校博物館 鬼面望瓦 高麗時代



東草 洛山寺 地蔵殿 望瓦龍、下に龍の絵

洛山寺は 1615 年建立の古刹でしたが山火事で全焼し、近年、再建されました。

新しい建物を見、海岸線を見下ろすすばらしい景色を眺め、記念館の瓦展示を楽しみ、入り口近くの塀に載せられた人面瓦に魅せられました。



東草 洛山寺 多面?観音(13面どころではない)



東草 洛山寺 記念館 高麗時代
鬼目文軒先瓦(三つ目の初見でした)



洛山寺 記念館 朝鮮時代 鬼瓦(軒先瓦)鳥



東草 洛山寺 塀 人面瓦

神様！ 仏様！

原州のホテルに戻ったとき、ショッピングなことを告げられました。

5 日間、お世話になった通訳の尹永淑(ユンヨンスク)さんが、明日は釜山で開催されるロータリークラブの日韓交流集會に通訳として参加するので、これで「さよならです」というのです。

さらに、ずっと車を運転して案内し続けてくれた金在煥会長と全美貞(チョンミジョン) 事務局長も、仕事が詰まっているから「これで」というのです。

明日は夕方の飛行機で帰日する前に、ソウルに新しくできたユグン瓦当(ワダン)博物館を見学するつもりでした。韓国の博物館地図をいただき、バスでソウルに行き、タクシーに乗れば行けるだろうとは思ったものの、韓国語が不自由で質問一つできないのでは、肝心の鬼瓦の勉強にならないではありませんか。

尹永淑通訳に「ソウルに日本語ができる友人はいませんか」と頼みましたが、思い当たらないといいます。

日本に電話を入れて、そもそもこの旅を実現させてくれた梅田玉姫さんと、韓国に知人がいる坂本千夏子さんに、「何とか3~4 時間付き合ってくれる通訳を探してほしい」と頼みました。

坂本さんから、「突然のことで、友人と連絡が取れない。日本語タクシーを使ってみたら」というアイデアが返ってきました。でも、タクシーの運転手は、観光に必要な日本語は習得していたとしても、瓦のこと、文化史のことを通訳してもらえらるだろうか、不安になりました。

パニック状態で時が過ぎて 22 時近く、尹通訳から電話が入りました。「明日は、金会長が車をまた出してくれます。通訳も見つけました。安心してください」。

神様！ 仏様！ 韓国の人びとの友情に、あらためて深く感謝しました。政府と政府がギクシャクしても、庶民は暖かく、仲良くしているのです。(つづく)